

私の提言

清武直志 (財) 東京救急協会指導課長

1964年生まれ、東京出身。救急救命士。専修大学卒業後、都内消防署勤務を経て杏林大学病院高度救命センターにて委託研修。2004年、野方消防署救急係長・大隊長、05年海外消防事情調査員として英仏の救急医療体制を調査。(財) 東京救急協会は応急活動の普及啓発を目的に1994年に設立。東京消防庁からの委託業務として一般向け、指導者向けの救命講習を実施。詳しくは以下ホームページ参照 <http://www.teate.jp>



救急・救命の世界には「チェーン・オブ・サバイバル」という言葉がある。心肺が突然停止した人の命を救うには、「早い119番通報」「早い心肺蘇生」「早い除細動」「2次救命処置(救急隊や病院での処置)」という4つの行動が、鎖のように連続して行われることが必要という意味だ。

一つでも鎖が切れてしまうと、救命効果は大きく低下してしまう。東京消防庁の場合、救急車到着までにかかる平均時間は6分10秒(平成18年)。心肺停止後3分放置されると死亡率は約50%、6分で100%近くなる。

「救急車到着までの6〜7分を空白にせず、いち早く応急手当を行うことで、蘇生の可能性を上げられる。4つの鎖のうち3つは、そこに居合わせた人ができること。積極的に行動してほしい」と、清武さんは呼びかける。

心肺停止した人を蘇生させるためのAED。より多くの人々に使い方を知っておいてほしい

公共施設を中心に12万9000台が配備

突然の心肺停止に威力を発揮するのがAED (Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器)だ。AEDは心電図の自動解析装置を内蔵した医療機器。心臓に電気ショックを与え、心肺停止の原因となる致死的不整脈(心室細動など)を取り除き、心臓の動きを回復させる。

除細動器の使用は医師、看護師、救急救命士に限られていたが、平成16年より一般市民も応急手当の場面で使用することが承認された。AEDの普及率は平成19年末で全国約12万9000台、都内には約1万3000台。駅や空港、大勢の人が集まる施設、学校などに配備が進んでいる。

企業や学校ではAEDの講習会も増えている。(財) 東京救急協会が実施する応急手当講習会も昨年は19万人が受講した。平成18年に報告されたAEDの使用例は東京消防管内で1202件。東京のある娯楽施設では、職員3人が協力して応急手当を行い、心肺停止した来園者を、昨年からは今年に掛けて3回AEDで蘇生させた例もある。

「ただし、AEDさえあればいいわけではありません。気道の異物除去や、胸部圧迫で脳や心臓に血液を送るなど、他の応急手当も同時に行うことで、救命効果を上げることが出来ます」と清武さん。



AEDトレーニング用の機械を使用して、実際のAEDの取扱いを学ぶことができる

応急手当の場面では多くの人の協力が不可欠

清武さんは「応急手当の場面では、一人で頑張らず、みんなで協力することが大切」と言う。周囲の安全確認、119番への通報、倒れている人への声かけ、AEDを取りに行く―みんなで行うべきこと。また「救急車到着するまでの間、救急隊員が電話で応急手当を指示するので、それに従って応急手当に臨んでほしい」。

東京消防庁の調査では、市民のAEDへの認知度は8割。しかし「AEDができる人」となると13%で、そのギャップはまだ大きい。「知っているけど、使い方が難しいと思われるようですが、実際の操作はとても簡単です。ふたを開け電源を入れると、機械が音声メッセージで使い方を指示してくれるので、その通りにやればよい。ぜひ応急手当の講習会を受けてほしい。一度経験しておけば、いざという時でも自信を持って操作でき、もっと多くの人の命を救えると思います」。

※除細動器は心臓がケイレンしたように細かくふるえて血液が拍出できない致死的不整脈(心室細動)を電気ショックで取り除く処置。そのふるえを取り除く処置。

危険予測トレーニング(KYT) — 危険感受性を育てる

第4回 一時停止標識のある小さな交差点(四輪車)

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を育てるための題材をご提供いたします。今回は高齢者の方に、自動車運転中の危険を考えてもらうためのKYTです。クルマを運転する方々を対象にしたグループ教育の学習の中で活用してください。



通り慣れた道の小さな交差点の手前で一時停止しました

- ・通り慣れた住宅地の生活道路、前方の交差する道は、一方通行ではありません。
- ・あなたは手前の停止線で一時停止しました。
- ・交差する道が続いて2台のクルマが通っていきます。
- ・それを見て、あなたはゆっくり進み始めました。

あなたはどこに注意しますか？イラストの中のその個所に丸印を書き込んでください。

制限時間
1分

活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
- ③ その後、「解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すればいいか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJのホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部
TEL: 03 (5412) 1736

今回のKYTの題材は、Hondaの高齢ドライバー用プログラム「いつまでも元気に暮らすために危険予測トレーニング30」から抜粋しています。詳細については以下ホームページ参照。



<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/senior-training/>